



発行：NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21  
編集責任者：奥野 享  
事務局：豊中市環境情報サロン内  
〒561-0804 豊中市曽根南町1-4-3  
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

### この号のハイライト

P. 1 アジェンダ見直し/P. 2 タンポポ調査/P. 3 産業部会学習会/P. 4 とよっぴー祭り/P. 5 ミニボジウム/P. 6. 生活部会/P. 7 とよなか市民環境会議/P. 8 地球環境大賞の授賞式

2005年(平成17年)6月号 NO. 11 (通巻第29号)

## “豊中アジェンダ21”の見直しを行いました

とよなか市民環境会議が全国でも先駆けてつくった「豊中アジェンダ21」も5年が経過し、世界や地域での環境問題の状況変化とこれまでの活動を踏まえた中で、中間見直しを行いました。

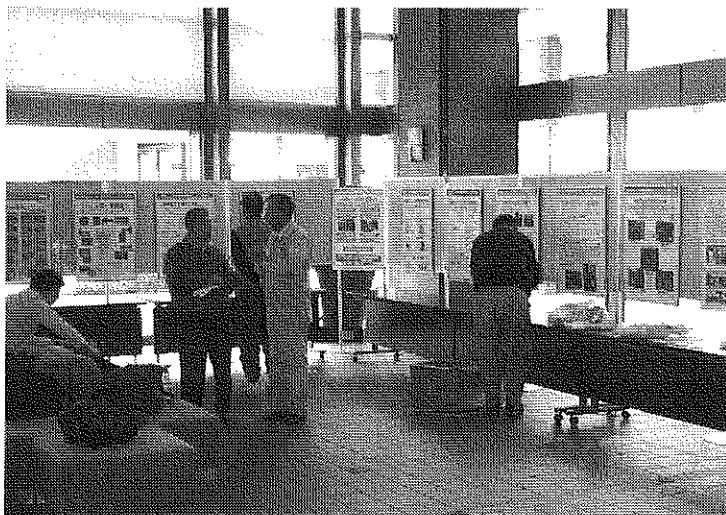
見直しに、とよなか市民環境会議アジェンダ21が中心となり、2003年10月から検討を重ねました。まず、当初の101項目の行動提案について、どのように取り組めたか、どこまでできているか、提案によって環境の現状はどのように変わったかなどのいくつかの視点でひとつひとつチェック・評価しました。

この中で見えてきたのは評価の難しさで、見直しにあたっては、今後どう検証し、評価するのかを考える必要があるということが確認されました。

2004年7月からは、広く市民の参加を呼びかけたワークショップを全7回開催しました。このワークショップの成果をもとに、さらに検討を重ねた結果、101項目の行動提案が新たに84項目に再編されま

した。

この新しい84項目については2005年3月14日～18日にかけて市役所第二庁舎ロビーに貼り出し、来館した市民の皆さんに重要だと思うものにシールを貼ってもらうという方法で確認していただきました。



また、3月21日の千里中央で行われたイベントでも同様にシールを貼ってもらいました。合計で最もシールが多かったのは、「学校における環境教育を進めよう」でした。

その後、この各項目についてはそれぞれ市民・事業者・行政のどこが主体となるのか、優先度、評価指標などを明らかにする作業を

行い、最終的には88項目に整理し、全体的な検証・評価方法を含め、原案にまとめました。そして、この原案は6月30日のとよなか市民環境会議の総会で承認を受けた後、配布用に編集・印刷することになっています。(井上和彦)

### とよなか市民環境会議・NPOアジェンダ21総会

とよなか市民環境会議と、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21の総会を6月30日に豊中市市民会館で続けて開催いたします。総会に先立ち、「京都議定書発効と私たちの活動～地域で進める地球温暖化防止～」と題して、NPO法人環境エネルギー政策研究所の能村聡さんによる講演会を行います。2月16日に国際的な約束が効力を発し、一方豊中では、豊中市環境基本計画と豊中アジェンダ21が同時に見直されたこの時期に、地球環境と地域での取り組みを具体的に結びつけるお話が聞けるとおもいます。

NPO法人の総会では、NPO法人になって1年半がたち、より幅広い活動の状況を報告いたしますので、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。(井上和彦)

## タンポポ調査・西洋タンポポの雑種が増えている

タンポポ調査は、身近で見られるタンポポが、在来種か外来種かを判別して、地域ごとに自然環境に対する人為的関わり方の強さを知ろうというもので、大阪では1975年から5年ごとに行われてきました。

30年目に当たる今年は、大阪のみならず広く近畿全域で、統一した方法により調査が行われています。

とよなか市民環境会議アジェンダ21自然部会では、従来からこの調査に協力していますが、今回も、以前に実施した春、秋の野草調査の実績をふまえて、広く市民の皆さまに呼びかけて、実施することになりました。調査に先立ち、4月9日午前10時から蛍池公民館で、23名の方々にお集まりいただき、説明会を実施しました。

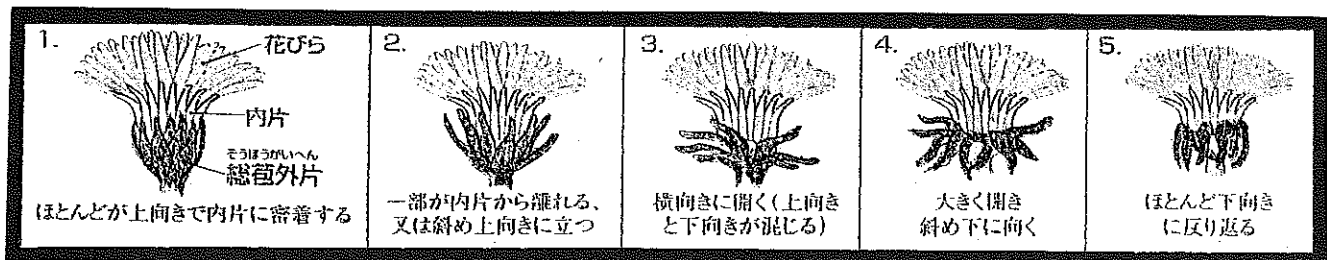
当日はタンポポについての一般的なお話の後、調査方法についての説明があり、参加者の皆さんに、市内

全域を51メッシュに分割した中からそれぞれご自分の担当調査地を選んでいただきました。

最後に屋外へ出て、タンポポの生育している場所（刀根山病院東側空き地）へ行き、タンポポの観察と調査の仕方の実習を行いました。

幸い、カンサイタンポポ、シロバナタンポポ、セイヨウタンポポ、アカミタンポポそれに雑種とおぼしいもののすべてを観察することができました。その後、各調査員から環境情報サロン内の自然部会宛に送られた調査資料は、開封してすべて花粉分析を行った後、独自に豊中市内の過去のデータと比較分析を行い、最後にタンポポ調査の実行委員会へ届けることになっています。調査結果については、いずれ説明会を開いてご報告する予定です。

（斉藤明）

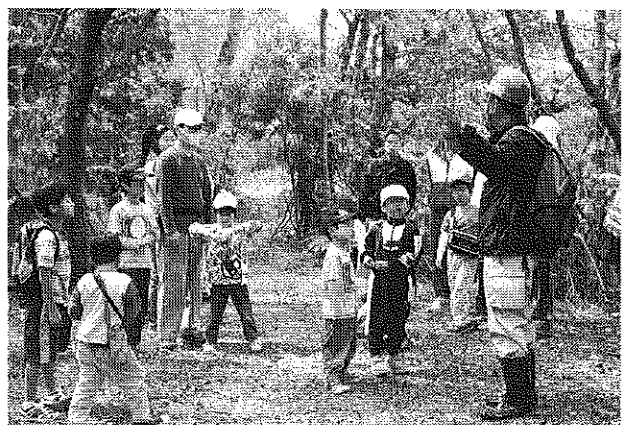


## 「若竹さがし」 第9回自然ふしぎ発見クラブ

今日、4月23日は野外で過ごすには最適の日でした。花粉症気味の保護者の方はマスクをして参加されましたが、子ども達は元気いっぱい。スタッフは若い両親の参加が多く、嬉しさいっぱいでした。

インタープリター（説明者）は島熊山の雑木林を守る会の会員としても長年活動されている岸田さんです。参加者全員、島熊山へ来られるのが初めてとのことで、豊中市の地理、地勢の説明から、かつての里山が四つあり、宮山、刀根山、待兼山と、今残っているこの島熊山で、この地が豊中の至宝であることや、未来永久に大切に守るべき山であることを話して解っていただきました。

谷あいの細い坂道を一列になってゆっくりと下ると、幽谷の世界が広がります。空を見上げると、コナラやヤマザクラの若葉がひらひらと風にゆれて、私たちを歓迎しているようでした。谷の突き当たりにある、周囲が昔のまま残されている古池を見てから、谷の広場



で恒例のふしぎ発見クイズと紙芝居。たのしい笑い声とともに、一体感が生まれます。ふかふかの落ち葉も体験して、お待ちかねのだけのご観察を30分ほど楽しみました。

里山はいつも豊かな自然を循環させて私たちを待っています。またご参加ください。

（上田峯子）

# 産業部会学習会 各種リサイクル法の話をお聴く

産業部会は2月23日午後1時30分からくらしかんイベントホールで、「各種リサイクル法の法規制遵守」について佐川直史さんの話を聴きました。参加者27人、整理された法体系の話は分かりやすく参考になりました。

## 循環型社会への枠組み

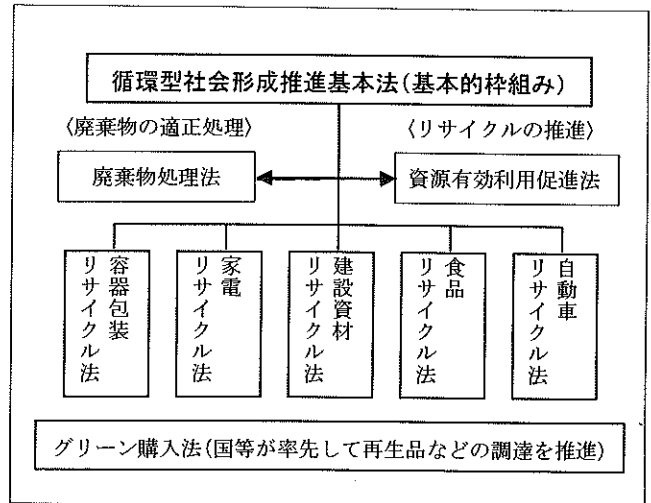
今日では循環型社会形成推進基本法が関連する法律を総合する法律としてできあがっています。この基本法は資源有効利用促進法と併せて平成13年に成立し、資源循環の枠組みがつくられますが、それまでは廃棄物処理法の改正が繰り返されることで一般的な仕組みを決めていました。

資源循環を促進する具体的措置として、さらに容器包装リサイクル法（平成9年から一部施行）、続いて家電リサイクル法（平成13年）、食品リサイクル法（平成13年）、建築資材リサイクル法（平成14年）、自動車リサイクル法（平成14年）が決められ、これらが整備されることにより全体の法体系が出来上がったと言えます。循環型社会形成推進基本法では、処理の優先順位をはじめ法定化し、①発生抑制、②再使用、③再生利用、④熱回収、⑤適正処分との優先順位が定められています。また「拡大生産者責任」の一般原則も規定されています。

## 豊富な資料が駆使され

話の中ではいろいろな資料が提出されました。建設廃棄物は産業廃棄物の排出量の約2割であるのに対して、最終処分場では約4割を占めていることなど事態の大きさを再認識。

また、事業者対象に行ったグリーン購入の価格についてのアンケートで最近ではコピー用紙の場合、安い・



やや安い・同等、を合計すると60%を超えていることなど、私たちの知らないところで、ずいぶん紙のリサイクルが進んでいるのに感心させられました。

食品リサイクル法の関連でも、私たちの家庭で出される食べ残しとそれ以外の廃棄を合わせると5.6%もの食品ロスがあること、また一方では日本の食糧自給率が40%しかないことなど、消費構造の不安定な割には食べ物が大事にされていないことを考えさせられました。

佐川さんの話は、いつものようにパソコンで資料を駆使しながら、分かりやすいだけでなく、ときどきクイズで頭を休めるように配慮もあり、楽しい学習会でした。(奥野享)

## 豊中市の省エネと事業所のムダな電気の削減策

3月23日、くらしかで「豊中市の省エネと事業所のムダな電気の削減策」についての講演と勉強会を行いました。

まず、豊中市が省エネ対策として取り組んでいるESCO事業について、環境政策課の大源文造さんと建築課の野村重男さんの話を聞きました。取り組み事例として、市内4カ所の共同利用施設と野田小学校の空調設備の改修工事についての説明がありました。4カ所の共同利用施設では、改修後の年間エネルギー消費量は42~47%も削減されたそうで、これはCO2排出量に換算すると47~54%と、かなりの削減率になるようです。

後半は、エネルギー管理士の川合隆さんの講演です。事業所における1日の電気の使い方をチェックして、ピーク電力が一定の時間帯に偏っている場合

はできるだけ一定な使い方になるように工夫したり、使い方に合った契約に変更することでかなりの電気代削減ができることや、モーターのインバーター化が有効なことなど、貴重なアドバイスがありました。

また、①導入時のままの設定になっていないか？②過剰設備になっていないか？などの省エネ見直しポイントも教えていただき、まだまだ見落とししていることがあるかもしれないと感じました。

事業所でのエネルギー削減は、数%の効果でも家庭の数軒分、数十軒分にも相当します。省エネはコスト削減だけでなく、社会人としての務めでもあるのではないのでしょうか。産業部会として、小規模の事業所が気軽に相談できる省エネ診断の仲立ちなど、お手伝いできることは多くありそうで、今後の課題がまた一つできました。(茨木かづ子)

## 「とよっぴー祭り」準備中！お楽しみに。花と緑のネットワーク

ことし4月で豊中市の「緑と食品のリサイクルプラザ」は開設3周年をむかえました。花と緑のネットワークはそこで製造された堆肥の配布配分や啓発事業を担当しています。



16年度の生産データとしては、1年間で92トンの「とよっぴー」（土壌改良材）が製造されました。これは、生ごみ138トン（服部給食センターと原田給食センターの調理くずと各学校からもどってきたおかずとご飯です）剪定枝のチップ128トン（市が公園や街路樹の剪定をした分）の合計266トンの有機物がクリーンランドで燃やすごみとして焼却処理しないで微生物発酵されてきたものです。

$138 + 128 = 266$   $266 - 92 = 174$  この174トンはなんの



重さでしょうか？水分でしょうか？微生物が分解したのでしょうか？なぜですね。製造された「とよっぴー」はすべて、目的別に分類され有効利用されました。学校や保育園などの教育施設に9トン、農園関係に18トン、花いっぱい運動に3トン、イベント関係に4トン、そして有料頒布分には

59トンという内訳でした。有料頒布の購入者は延べ1337人で、全体の64%にも及びます。

有料頒布がこのような増え続けているのには、2年続けて市民農園の契約会場で市民の方へとよっぴーの啓発の機会をいただいたことや口コミの影響もあって、

土作りのシーズン4月5月は購入者も毎回100名を越える状況で、駐車場の誘導交通整理も大変です。

堆肥化事業はごみ減量になりますが、本来それが最終目的でなく、資源の循環や自然の循環・食料問題・食農教育など、自然の恵みである食べ物を大切にするこまで気がついていくようになります。

さらに多くの市民にこの堆肥化施設を知っていただくため7月2日（土）「とよっぴー祭り」を開催することになりました。今まで関わりのあった団体に呼び



かけ実行委員会を春に立ち上げ準備しています。

祭りの企画のひとつに施設横の空き地を耕してじゃがいもの収穫体験を行ないます。ここでは、その日の収穫だけでなく、植え付けから草抜きなど時間をかけて、じゃがいもに関わっていくコーナーも設けました。

「マイじゃがいも」の世話をするためのプレ農園体験に、毎月原田保育所の子どもたちや子育て中のお母さんと子どもたちがこられています。

お祭り当日はバラの苗木やお米が当たる抽選会や産直野菜市・木切れで遊ぶコーナーなどなど、楽しくワ



クワクワする催しを実施します。皆さん、お誘い合わせで来てください。

（高島邦子）



## ミニシンポジウム 環境関連の職場から

3月12日午後2時から、福社会館でおこなったミニシンポジウム「環境関連の職場から」は、若いパネリストを中心に就職活動を目前にした学生26人の参加があり、スタッフとパネリストを合わせると40人を超える集会になりました。

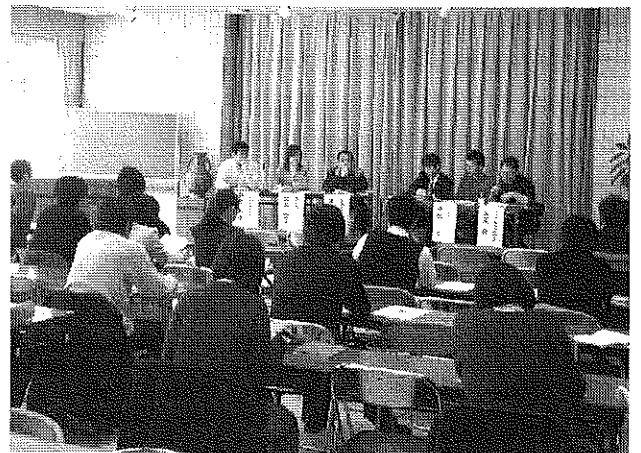
パネリストは6人。コーディネーターであるアジェンダ21の事務局長井上和彦さんの皮切りの自己紹介ではじまります。荒井啓子さん（豊中市環境政策課）、斉部一文さん（㈱久保田）、高祖研一さん（㈱日本気象）、本田敦夫さん（㈱大阪ガス）、永富聡さん（㈱日本総合研究所）がそれぞれどんな仕事をしているかを語りました。

パネラーは、学生時代に考えていた就職後のイメージと現在の状況、自分の仕事のやりがいなどをそれぞれ話していましたが、参加者は「ナツク！」という風でした。

年齢差の大きい筆者にとっての印象は、就職により生活の安定がえられるというかつての気楽な社会と違って、スタートラインの平等はあってもその後の競争が大変な今の社会を具体的に知ったことでした。

参加していた学生の感想も聞きました。

「環境関連の就職って、とても限られたものかと思っ  
ていましたが、いろんな方面から環境に関わることが  
できるんだと知ったのが新鮮でした」「複数のパネラー



から就職しても『仕事は自分で見つけてくる』と言う  
発言が聞けたのも意外でした」「一度就職した後転職  
された方のご意見が貴重でした」などなど。

「楽しく勉強になる話を聞くことができ、有意義な  
時間でした」という感想を多くの方々から聞くことが  
でき、500円の参加費も高くはなかったかな、と主  
催者側に立つ一人としてはホッとしました。

ミニシンポジウムの開催趣旨が「これから環境関連  
の仕事をしたい人に」ということでしたが、感想でも  
語られていたようにいろいろな方面で、環境問題の活  
動をする、重要な場がいっぱいあることを私たちも再  
認識させられました。 (奥野享)

## 千里中央公園の若竹きり 竹炭プロジェクト



竹は春になると地下茎から芽をふくらませタケノコとなって現れますが、その勢いたるやおよそ3ヵ月で成竹になります。

「破竹の勢い」とは元来竹を割るとき初めの一節を割れば後は容易に割れる所から、とどめがたいすごい勢いをいいますが、タケノコの伸び

るスピードは日に1mにも及ぶこともあります。本当にすごいですね！

ところで、千里中央公園における竹の間伐作業の甲斐があって、うす暗かった竹林は次第に明るさを取り戻して参りました。これから5月、6月は今年生まれの若竹の間伐が待っています。たっぷりと水分を含んでいるので運ぶときはずっしりと重くのしかかります。この作業をしないとおそらく去年1年かかって切った竹（約1100本）以上のものが新たに増えるでしょう。5月19日には300本の若竹を切ったところです。時おり小鳥たちが訪れます。シジュウカラ、メジロ、エナガなど、遠くでカケスの声も。餌場が荒らされていると勘違いしているのだろうか。目標としている竹林の中の雑木林の保全と美しい景観、竹も大切に全体バランスを考えながら間伐作業は続きます。 (三宅史郎)

# 生活部会 モニターとのキャッチボール

エコライフカレンダーの活動は、モニターの皆さんからデータを頂くと同時に、自分の二酸化炭素排出量が多いか少ないかの参考になるようにデータを整理して提供しています。できるだけ日常的な対話を双方向の文書のやり取りで強めるなど、キャッチボールの機会を多くするよう努力もしています。その一つが1年間のデータのまとめです。

2004年はモニター数161人、前年に比べ3割強も仲間が増えました。世帯の人数構成では2004年は1人世帯のモニターが減り、2人世帯のモニター数が大幅に増えました。また、12カ月を通してデータを提出してくれたモニター数は139人で、90%に近い方がモニターとして言わば皆勤賞でした。このように熱心な皆さまに支えられ、環境家計簿の資料を集める運動（エコライフカレンダー活動）の発展がつけられています。

今回のエコライフカレンダー活動のまとめの特徴は次の点に要約できそうです。

1. モニターの一世帯あたり二酸化炭素排出量、また1人当たりの二酸化炭素排出量をデータとして提供しました。
2. 新たに、世帯構成別に二酸化炭素排出量

の度数分布をグラフにして描いてみました。さらにもう少し分布データの整理の仕方を研究する必要もありますが、新しい実験へと新たな1歩を踏み出しました。

その他、モニターさんからの聞き取りによる事例研究など努力の跡がわかる報告も。冊子は表紙も含めて17ページ。関心のある方は事務所にご連絡ください。

(奥野亨)

## モニターアンケートの結果

3月末にエコライフカレンダーのモニター180人にアンケートを実施しました。郵便代を負担してまで回答を寄せられた方が72人。回答者のほとんどが記名でした。まったく感謝しています。

設問のなかで1年間モニターを続けてデータを提出してもらった方へ、ささやかだがお礼をしようかと尋ねたところ、大半の方が「要らない」と心強い回答。

灯油を使っているがどの程度の二酸化炭素排出になるのか、と一歩踏み込んだ質問も。これは来年のカレンダーを作るに当たって新たに検討する問題提起でもありました。

意見を書いていただいた中では、ごみ問題について関心の強いのも目立っていました。今年度はごみ問題についてのモニターといっしょの学習会も計画し、意見を頂いたモニターさんの期待に応えたいと話しているところです。

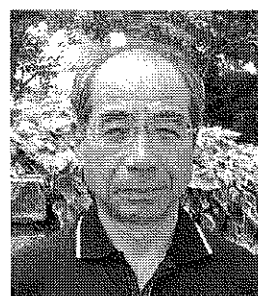
(奥野亨)



## 環境とわたし

環境という言葉を知ると、思い出すのは白煙を出している煙突です。奇異に感じるでしょう。昭和30年代のことですが、会社での仕事の一つに「新聞・社報」の作成がありました。新聞は毎月発行していましたが、毎月編集会議を開催し、時間に追いかけられながら記事を作成して行きました。11月には元旦の新聞1面に掲載する写真の検討です。色々な写真に苦労しましたが、その中の一つには「太陽が昇り、朝焼け・白煙を出す会社の煙突」を写したものがありません。早朝に、写真撮影の苦労は大変なものでした。当時会社の煙突から煙が大量に出ているのは、会社業績向上の印だと見なされていました。またカタログにも煙突には白煙を描いていました。その後、日本経済発展にとも

## 松本健治さん



ない、煤煙による公害問題が発生し、各産業とも工場環境整備を計画・実施。その結果、白色・黒色の煙を出す煙突は激減して行きました。その後、工場焼却炉にまでも容量により集塵装置設置が義務づけられ労働環境は改善されました。

会社退職後、何をしようかと考えていた時に目に付いたのは、豊中市のモニター募集の記事でした。早速ごみ減量のモニターに応募し、豊中市の環境行政の勉強、その後初めてクリーンランド等の見学に行きました。平成12年に、とよなか市民環境会議に入り、今はその末席で勉強をしています。

# 環境基本計画(改定)を策定しました!

市では、豊中市環境審議会の答申を受け、「環境基本計画(改定)」を2005年5月に策定しました。主な改定の内容について、ご紹介します。

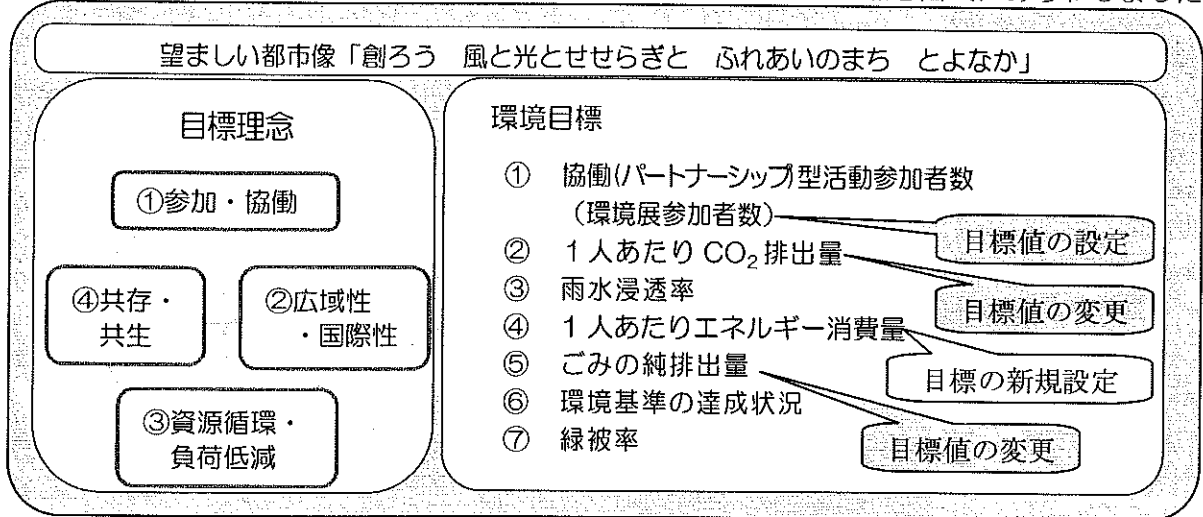
## ☆ 改定の三つの要点

- ① 最近の取組みの変化等を踏まえた計画
- ② 市民の意識と行動の変化、環境の現状に基づいた計画
- ③ 第3次総合計画等と連携した総合的環境行政の施策体系の確立

環境基本計画と豊中アジェンダ21は、協働とパートナーシップを基調にしたものであることを再確認し、協働とパートナーシップの推進を一層高く計画の中に位置づけました。

## ☆ 改定のポイント

- ① 計画理念の相互関連の図式化：目標理念が相互に関わりあっている点を図式にあらわしました。



## ② 環境目標と目標値の見直し

- ・ 他計画との整合性を図り、目標値の設定の見直しと、新規目標の設定を行いました。(上図参照)
- ・ 目標値のなかった「協働(パートナーシップ)型活動参加者数」について、環境展参加者数を目標値としました。
- ・ 環境目標と関わりの深いモニター指標を関連モニターと位置づけ、モニター指標が環境目標の達成状況の判断材料となるようにしました。

「豊中市に定住希望する市民の割合」は、重要な関連モニター指標としました。また、このような定性的指標について、目標到達度の把握方法などを検討していきます。

## ☆ 環境報告書の位置づけと進行管理の充実

とよなか市民環境会議アジェンダ21等による市民活動の推進についても環境報告書を活用するとともに、環境報告書の作成プロセスから市民の参加が増えるような仕組みを考えます。

環境行政の施策推進のため、効率的・効果的な進行管理システムとして環境報告書を機能させることに加えて、市民の活動も含めた報告書として充実させていきます。

豊中市では、環境基本計画(改定)と改定予定の豊中アジェンダ21を今後も車の両輪とし、協働・連携しながら、より一層環境施策を推進していきます。今回の改定により、5年後の目標年度に向けて、市民のみなさんとともに新たな挑戦の一步を踏み出します。



みんなで止めるようお願いします。

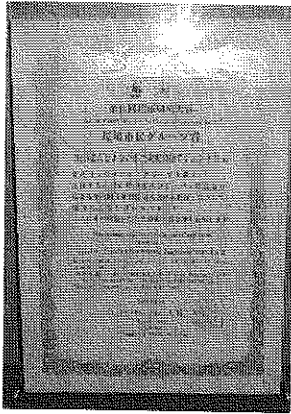
CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン「ブラックイルミネーション2005」の開催  
—誰でも参加できる世界的イベント—

6月19日(日)20時~22時 世界のタワーやライトアップ施設そして各家庭の電気を一斉に消灯します。

みなさまも家庭の電気を消してご参加ください。環境省「環のくらしホームページ」<http://www.wanokurashi.ne.jp>

# 地球環境大賞授賞式

フジサンケイグループからの第14回地球環境大賞環境市民グループ賞の授賞式は4月14日東京代々木の明治記念館で行われ、私たちを代表して河野猪太夫理事長と井上和彦事務局長が参加しました。



翌15日、河野理事長と井上事務局長とで朝いちばんに一色貞輝市長を訪ね、受賞を報告。そのあとアジェンダ21の事務所に戻り授賞式の様子を報告するとともに集まった理事とともに受賞を喜びあいました。豊中市広報の取材に「この賞はアジェンダに結集している会員と、応援してくれている市民の皆さんが受賞したものです」と理事長は受賞の喜びを語りました。 [奥野享]

## 企画屋本舗たいていまプラン中!

夏休みに入っすぐの7月27日(水)、小・中学生と保護者を対象に、「親子で楽しくエコツアーin豊中」を計画中です。太陽・風・水など自然の恵みを活かした太陽光発電、風力発電、その他の施設を見学し、これからのエネルギー利用について、子ども達にこそ考えてもらおうと企画しています。京都議定書が批准され、本気で地球温暖化防止の行動が求められているとき、豊中市内に設置されている事業所や民家、行政施設を見学しようと情報収集中ですが、市の施設以外はあまり分からず苦労しています(ご協力いただける方をお待ちしています)。第1回目は花とみどりの相談所から出発、北部の施設見学を予定。どこに、どんなものがあるかはお楽しみ。当日手伝ってくださるスタッフも募集中! (新聞悦子)

## 編集室から

- ▼茨城県東海村の環境自治体会議、行ってみると駅前に「エコりん」なるもの。いわゆるレンタサイクル。乗り放題で4カ所のステーションに返す。それが無料で申込みや借用書もなし、勝手に使えばいい。その気楽さが好き。いっぺんに東海村ファンになった。(Z)
- ▼駅からバスに乗るのを止めて、車の多い道を避けて住宅街を歩いていると、エンジンをかけたまま駐車しているトラックに出会った。あたりの空気は不快な排ガスの臭いが鼻をつく。運転手はいない。こんな時こそ、アイドリングストップを心がけてほしい。(W)
- ▼自転車での通勤途上に一首、「水門に行く手閉ざされ鯉の群れ 水面にありて我を喜ばす」 昨年水路でたくさんの魚が死んでしまいましたが、まだ生き残っている鯉たちがいて、時々姿を見せてくれます。嬉しいのですが、反面申し訳なくて、複雑な思い。(Y)
- ▼私は、自然も、きれいなものも、買い物も、都会生活も、田舎暮らしも、どれも好きで憧れる。欲張りにも、

全て失いたくないから持続可能な社会を作りたい。とりあえず、電気消すぞ! ポリ袋いらないぞ! 捨てないぞ! (植木はなぜか枯れちゃうけど...) (K)

▼市役所などに飾られている航空写真を見るのが好きです。飛行機で上空から地上を撮影したのですが、まるで自分が空を飛んで見下ろしている気分になります。また、緑がどこにどれだけあるのか一目でわかりますし、昔の写真と比較するのも面白いです。(J)

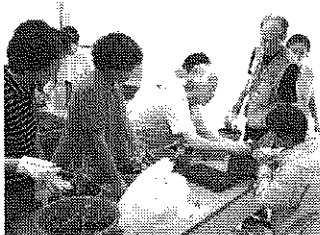
▼梅雨入り前の時期は、カビの胞子が部屋中にいっぱい。対策として、換気をすること。窓を開けるときは出来るだけ遠くの窓を角度をつけて開けると良いそうです。空気の流れを作ることが大事。留守で一日中閉め切っている方、帰宅したらまず換気ですよ!(P)

《広報チーム》  
Z奥野、W岩瀬、Y小村、N三宅、K荒井、J井上、P大村

<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>  
Eメール [ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp](mailto:ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp)

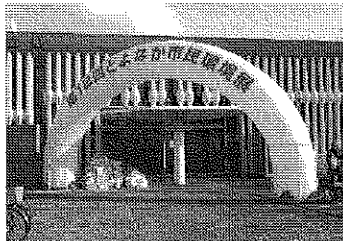
## アジェンダにはあなたの居場所があります

企画屋本舗



ハーブの寄せ植えを楽しむ

市民環境展



環境クイズラリーなど

自然部会



竹や木の実を使って工作